

## ・教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

慈恵の看護専門学校は社会のニーズに応じて医療施設のみならず在宅および保健医療福祉分野に貢献できる専門職を育成している。

教育課程は、教育理念、教育目標、卒業時の到達目標（ディプロマ・ポリシー）に基づいて、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」で構成する。

- 1) 基礎分野と専門基礎分野は、専門領域を学ぶ上で土台となる。専門領域の基礎看護学を核とし、あらゆる対象、健康の段階、療養の場の看護を展開でき3年間で修得すべき能力を養う為に必要な学習の順序性を考え、さらに看護基礎教育と卒後教育の橋渡しとなるようカリキュラムを構成し、配置する。
- 2) 低学年時からグループ討論、演習、実習を多く取り入れ、反復と応用、体験を繰り返せるような組み合わせで配置する。
- 3) アクティブラーニング、シミュレーション学習、ロールプレイ学習など、知識だけでなく体験を通して学べるような教育方法を積極的に取り入れる。
- 4) 日常的な体験を通して、さまざまな人々と人間関係を形成するコミュニケーション能力を養えるような機会を提供する。
- 5) 豊かな人間性と、人に対する関心と思いやりをもち、誠実で良識ある行動ができるよう教科内に留まらず、学校生活のすべての場面を学びの機会とする。
- 6) 科目目標の達成度は、多様な評価方法を用いて総合的に評価する。

## ・主な教育・研究の概要

雑誌 看護教育 2022年6月号

今こそ新人看護師支援を移行期に教育機関にできること

教員が語る背景と展望

那須詠子、柳原和代、伴美智子、浅川友祈子

### (3) 慈恵柏看護専門学校

#### I. 教学関係

##### 1. 学校運営に関する会議

- ① 学校運営会議は、学校長、参与、副校長、教務主任、事務長の5名で構成され、毎月1回開催した。
- ② 教員会議を毎月2回、教職員会議を毎月1回開催、その他、卒業認定会議、単位認定会議、入学試験判定会議、カリキュラム会議、臨床実習指導者会議等を開催した。
- ③ 2名の学校関係者、学校長、参与、副校長、教務主任、事務長の7名による学校関係者評価を1回/年開催した。

##### 2. 教学関連の主な事項

- ① 2022年度の授業は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の影響が続いたため、eラーニングによる遠隔授業と分散登校による対面授業を併用して実施した。
- ② 対面授業と遠隔授業の比率は学年により異なるが、2021年度に比べ対面授業の割合が増えた。また、学年を超えた交流の場を持てるよう「たてわり交流会」を導入し2回/年実施した。
- ③ 入学式はCOVID-19のため今年度も3校合同ではなく各校開催となり、4月5日（火）に新入学生および専任教職員と一部の来賓出席により開催した。
- ④ 2022年度の学生数は1年生（36期生）79名、2年生（35期生）82名、3年生（34期生）75名、計236名で新学期を迎えた。
- ⑤ 保護者等説明会と個別面談は、4月23日（土）に3年生の保護者を対象に来校とオンラインのハイブリッドで実施した。しかし、1年生保護者対象6月11日（土）、2年生保

護者対象10月29日（土）では、感染状況を鑑みオンラインのみの開催とした。

- ⑥ オープンキャンパスおよび広報活動はCOVID-19の状況を見ながら次の通り開催した。  
（開催日・当日の開催回数・当日の参加者数〔同伴者除く〕）

※来校型オープンキャンパス

第1回5月28日（土）59名 第2回6月25日（土）60名 第3回7月23日（土）56名  
第4回8月20日（土）55名 第5回9月24日（土）43名 第6回11月12日（土）35名

※webオープンキャンパス

5月より順次、「学校説明動画」「慈恵ナースの一日動画(リンク)」「演習の様子BLS動画」「未来のナースマンへその②動画」「看護学生の一日動画」「施設案内動画」「来校型オープンキャンパスダイジェスト動画」を配信した。

なお、従前開催していた学校見学会はオープンキャンパスの一部として企画を統合して開催した。

※在校生とのオンライン座談会（Zoom使用）

第1回6月2日（木）1名 第2回6月29日（水）2名 第3回7月28日（木）2名  
第4回8月3日（水）2名 第5回8月25日（木）4名 第6回9月29日（木）1名  
第7回11月21日（月）2名

※教員とのオンライン個別相談（Zoom使用）

6月13日（月）1名、7月28日（木）1名、8月5日（金）1名 計3名

※推薦指定高等学校の対面訪問23校、電話訪問43校、業者開催進路説明会等の参加27回、受験情報誌等の掲載記事更新2回等の広報活動を実施した。

- ⑦ 戴帽式を11月19日（土）1年生77名で挙行了した。また、列席者は保護者等1名までと松藤学長、恵和会長、柏病院幹部教職員のみとし、理事長祝辞はメッセージ動画を頂戴し映写した。

- ⑧ 卒業式についても前年度に引き続きCOVID-19の影響があり各校開催とし、2023年3月11日（土）に講堂で挙行了した。34期生64名が卒業し、優等賞、同窓会より恵和会賞、千葉県知事賞、千葉県看護協会看護学生表彰が授与された。

列席者は保護者等1名までと、恵和会副会長、柏病院幹部教職員のみとし、理事長をはじめとする大学からの来賓列席は見合わせ、理事長の祝辞はメッセージ動画で頂戴し映写した。

## II. 入学試験

推薦選考一次試験を2022年10月6日（木）・二次試験10月18日（火）、一般選考を2023年1月6日（金）に実施した。なお、2021年度入試より一般選考は一次試験・二次試験の区分をせず、一日ですべての試験を実施する形態に変更している。

推薦選考では、志願者52名、受験者52名（内男子3）、合格者50名であった。

一般選考では、志願者65名、受験者61名（内男子6）、合格者33名であった。入学者は70名（内男子4名）であった。

## III. 国家試験

第112回看護師国家試験は2023年2月12日（日）に実施され、34期生が64名受験した。合格発表は2023年3月24日（金）に行われ、受験者全員が合格した。なお、全国の合格率は90.8%であった。

## IV. その他

### ・入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

慈恵の看護専門学校は、卒業時の到達目標を達成できる学生として、入学時には次のような人材を望んでいる。

- 1) 慈恵の精神に共感し、看護実践に取り組む意欲がある人
- 2) 目標に向かって自ら学び続けることができる人
- 3) 他者の意見を聞き、自分の意見を伝えて信頼関係を作ることができる人
- 4) 看護を学ぶために必要な基礎学力を持ち学習することができる人

- 5) 人に対する関心と思いやりがもてる人
- 6) 誠実で良識ある行動ができる人

・卒業時の到達目標（ディプロマ・ポリシー）

- 1) 人間を統合された存在として幅広く理解できる
- 2) 看護の対象者との信頼関係を形成するためのコミュニケーションができる
- 3) 豊かな人間性を備え社会的規範を理解し行動できる
- 4) 科学的根拠・倫理に基づきさまざまな健康状態に応じた看護を実践する
- 5) 保健・医療・福祉システムにおける看護と多職種の役割を理解し連携・協働できる
- 6) 生涯にわたり継続して専門的能力を高めていくことができる

・教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

慈恵の看護専門学校は社会のニーズに応じて医療施設のみならず在宅および保健医療福祉分野に貢献できる専門職を育成している。

教育課程は、教育理念、教育目標、卒業時の到達目標（ディプロマ・ポリシー）に基づいて、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」で構成する。

- 1) 基礎分野と専門基礎分野は、専門領域を学ぶ上で土台となる。専門領域の基礎看護学を核とし、あらゆる対象、健康の段階、療養の場の看護を展開でき3年間で修得すべき能力を養う為に必要な学習の順序性を考え、さらに看護基礎教育と卒後教育の橋渡しとなるようカリキュラムを構成し、配置する。
- 2) 低学年時からグループ討論、演習、実習を多く取り入れ、反復と応用、体験を繰り返せるような組み合わせで配置する。
- 3) アクティブラーニング、シミュレーション学習、ロールプレイ学習など、知識だけでなく体験を通して学べるような教育方法を積極的に取り入れる。
- 4) 日常的な体験を通して、さまざまな人々と人間関係を形成するコミュニケーション能力を養えるような機会を提供する。
- 5) 豊かな人間性と、人に対する関心と思いやりをもち、誠実で良識ある行動ができるよう教科内に留まらず、学校生活のすべての場面を学びの機会とする。
- 6) 科目目標の達成度は、多様な評価方法を用いて総合的に評価する。

・主な教育・研究の概要

【研究発表】

コロナ禍に看護基礎教育を受け、コロナ禍で新人として看護業務をスタートした大学病院に勤務する若手看護師の離職以降の関連要因，日本健康医学会  
唐澤教子

【執筆】

- ①東京慈恵会医科大学の新人看護師移行期支援 看護管理者・看護教員のアンケート結果からみえた課題と展望，特集 今こそ新人看護師支援を 移行期に教育機関ができること，看護教育，vol.63, No. 6.  
中尾みさ子、高橋 衣
- ②東京慈恵会医科大学の新人看護師移行期支援——教員が語る背景と展望，特集 今こそ新人看護師支援を 移行期に教育機関ができること，看護教育，vol.63, No. 6.  
柳原和代、那須詠子、伴美智子、浅川友祈子